

# 令和5年度 自己評価の結果について

学校法人旭川カトリック学園 羽幌藤幼稚園

## 1. 本園の教育目標

キリスト教的な愛を基本とする宗教的な雰囲気の中で、幼児一人一人と向き合い、人格形成に最も大切な時期に、はっきりとした道徳観をもてるようにする。また、戸外遊びなどを通じ主体的の遊ぶ活動を意図的に取り入れ、幼児自身が持つ可能性を最大限に伸ばすことを基本にした保育計画を作成し保育を行う。

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- \*カトリックの教育理念の理解に職員で取り組み、保育内容や指導のあり方についても職員間での話し合いを深め指導計画に反映させる。保育計画については保護者にも知らせ、共通の認識をもって保育にあたる。
- \*縦割り保育を実践する中で家庭的な園での生活を心がけ思いやりの心を育てる。また、年齢別保育では、年齢の発達に合った計画を行い、発達を考慮しながら進める。
- \*満3歳入園児に対して柔軟に対応し、初めての集団生活にスムーズに入れるよう一定期間の満3歳児クラスの配置や連絡ノートを活用し個別の対応に配慮する。
- \*園庭や園外保育を通して戸外遊びを充実させる。
- \*地域の資源や公共施設訪問などを行い、地域の環境を生かした保育の実践を心がける。また、老人施設訪問なども継続して取り組んでいく。
- \*支援を必要とする幼児に対して、職員を配置し、療育機関との連携を深め、保護者には園での様子を伝える連絡ノートを活用しながら一人一人に配慮した保育を行う。
- \*教師一人一人が幼児と向き合い、きめ細かい保育ができるよう、また保育チームとして情報を共有し、自己研鑽を心がけ資質の向上をはかる。
- \*小学校との相互の連携を深め、就学に向けてスムーズな移行を行う。
- \*保護者への情報提供を遅延なく行い、個人情報に留意しながらホームページやブログなどの充実を図る。
- \*卒園児を対象とした学童保育（のびのび）を継続し、子育て支援の機能を充実させる。
- \*一時預かり「どんぐり」の他に「ぼかぼか」を開設し保護者の方の利便性の一助とする。
- \*幼稚園就園前に「2歳児クラス」を開設し集団生活の一步として幼稚園での生活に慣れるとともに基本的な生活習慣を身につけ心身の豊かな成長を促す。

## 3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	評価	取組み状況
1 教育目標・教育方針 建学の精神にあるキリスト教理念を理解している。 教育目標と教育方針を理解して保育に当たっている。	A	教育目標にあるキリスト教的愛を基本とする雰囲気作りに努めるとともに、保育計画の中にも反映させて保育に当たってきた。

<p>2 教育課程・指導計画</p> <p>幼稚園教育要領を理解し、教育目標に反映させながら保育計画を作成している。指導計画を反省、評価し改善している。指導計画は幼児の興味や関心、これからの生活などを考慮して作成している。</p> <p>指導計画は、保護者にも周知し、家庭との連携をもって取り組む。</p>	<p>A</p>	<p>行事などは子どもたちが主体的に取り組めるように、十分な時間を掛けることにより、少人数ではあっても成果は達成できたと思う。園での取り組みが家庭にあっても理解いただけるよう2週ごとの週案やホワイトボードで提示することにより、子どもたちが、期待感を持って登園し、先の見通しを持って活動できるよう今年度も継続した。幼児の成長に合わせて都度話し合いを行い、柔軟に対応できるように心がけてきた。・個々の特性に応じた個別の対応に努めた。</p> <p>運動会や生活発表に向けて、1学期からリズム遊びや楽器遊びを取り入れ、今後の行事にも生かせるよう工夫した。</p> <p>・一人ひとりに合った関わりを心がけているが、より良い保育が出来るよう考えていきたい。</p>
<p>3 環境構成</p> <p>幼児の興味や関心、実態に即した環境を構成している。</p> <p>季節や周囲の自然を生かした環境を構成している。幼児の主体的な活動の合わせて適切に環境を再構成するようにしている。</p> <p>施設、設備を日常的に点検し安全を確保する。</p>	<p>A</p>	<p>幼児の興味関心を的確に捉え、環境構成を行うよう努力した。廊下に季節ごとの行事等の写真の掲示や季節ごとに子どもたちが作った作品をばら組壁面に展示するなど、季節を感じるよう工夫した。</p> <p>コロナも落ち着き、地域の行事が復活したことで、自然と触れ合う機会が増えて色々な経験が出来た。</p> <p>保護者のご協力を頂き、夏祭りや雪山づくりで楽しむことが出来た</p> <p>環境の構成を行い活動に取り入れているが、天候や幼児の体調、行事の変更もあり 出来ない事もあった</p>
<p>4 宗教教育</p> <p>宗教的な環境を大切にしている。</p> <p>祈りを大切にし、神様を賛美し感謝する心が育つよう、また、人を思いやる心が育つよう心がけている。</p> <p>園児に対して宗教講話が定期的に行われている。</p> <p>「がまん・しんせつ・おいのり」を保育の中で生かしている。</p>	<p>A</p>	<p>朝のお祈り、食前後お祈り、帰りのお祈りとお祈りによって始まり、終わる幼稚園であるよう心がけている。また、日々の保育の中で「がまん・しんせつ・おいのり」の実践も行っており、子ども達同士での関わりの中でも生かされている。</p> <p>聖堂でのお祈りの時間を大切にしている。</p> <p>神父様をはじめ、子ども達に定期的にお話し頂ける機会が増えた。また子ども達は真剣に聞き自分の思いを伝えていた。</p> <p>がまん、しんせつ、おいのりは日々実践している。</p>

<p>5 保育の内容・方法・</p> <p>健康のための食育や生活習慣を育て、自分を大切に、他の人や社会の喜びを持たせる。</p> <p>友達と共感し、助け合い、協同でやり遂げる喜びを持たせる。特に弱い者や小さい者を大切にする。</p> <p>保護者、祖父母、地域等の、幼児を取り巻く人々の愛情に気づかせ、家族、高齢者とのふれあいを大切に、人々に出来ることを実践する。</p> <p>自然界の不思議に関心を持たせ、畏敬の念と、自然を大切にする心、探求し思考する喜びをもたせる。</p> <p>動植物との触れ合いを多くし、生命を大切にする心や感謝する心、豊かな心情を育てる。</p> <p>言葉を注意深く聞き、心を開いて話し、神との対話である祈りのための沈黙や静けさを大切にする心を育てる。一人ひとりの個性を大切に自己表現を助け、美しいものにたいする感性や創造性を援助する。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>縦割り保育の中で、上の者が下の者に対して自然と手を差し伸べる心優しい子ども達の姿を見て、そういった親切心を今後も育てていけるよう努めたい。</p> <p>田植えや稲刈りを見学させて頂いたり、園でじゃがいもミニトマトなどを育て収穫を行った。</p> <p>餅つきなど保護者や地域の方の協力を得て実施した。</p> <p>恒例となった老人施設への訪問は、プレゼントを制作し代表が贈る事が出来た。</p> <p>オタマジャクシを採取し、園で飼育し身近な生き物にふれあう機会を設けた。</p> <p>鮭の遡上見学は天候の状況で実施することが出来なかったが、遠足で地引き網したり、水産加工場の見学をしたりと地域の方の協力を得て多くの経験をすることが出来た。地域での活動や体験で様々な物事に興味を持てるよう今後も取り組んでいきたい。</p> <p>冬の外あそびは、父親の会で造っていただいたスロープやかまくらなどで遊ぶことが出来た。</p> <p>警察による交通安全指導、防犯教育、消防署見学での訓練見学など地域の方の協力をいただきながら取り組んできた。警察の「ひまわりの種プロジェクト」に参加し（種植え、種取りなど）そして大きく咲いたひまわりを見学と交通安全意識の向上につながった。</p> <p>また、支援を必要とする幼児に対し、療育機関と連携し、個別の支援計画を作成し、保護者との連絡ノートに園での様子を画像とコメントで知らせ、きめ細かい支援を行った。</p> <p>満3歳児入園の幼児に対しても園に慣れるまで個別の対応を行い、連絡カードなどを使い保護者との信頼関係を築き、スムーズに園生活が送れるよう配慮した。また、幼児に合わせ、柔軟な対応を行い、支援を必要とする幼児に対しては個別の対応ができるように、職員を配置し対応した。</p> <p>様々な場面で子どもたち同士が、協力して難しいこともやり遂げることで喜び合えると改めて感じる事が出来た。</p>
--	--

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

キリスト教理念や建学の精神は共通認識をより一層築けるよう、さらに取り組んで深めていきたい。

今年度から1クラスになり、行事なども方法を変えながら進めていた。

縦割り保育は継続する中で、異年齢での生活が元となり思いやりの心が育まれている。自由遊びや保育室の活動の中でも育んでいる。今後も引き続き園の特色として進めていきたい。

運動会、お店屋さんごっこ、もちつきとご参加いただき、より一層家庭的な園の雰囲気作りとなった。保護者の皆様のご理解と協力に感謝している。

支援を必要とする幼児に対して、個別の対応をすると共に、保護者が安心して預けられるよう信頼関係を築いた。

保育計画や内容については、幼児の興味や関心を的確に捉え取り組むよう努力してきた。

年中長児で、専門家の指導の下、コーディネーショントレーニングを(月2回程度)取り入れ、楽しみながら運動能力、運動神経の向上を図っている。また、保護者の方に参観日の中で体験して頂いき理解を深める機会を設けた。

幼小の連携については、状況を考慮しつつ小学校への行事参加も取り入れながら、情報交換を深めていきたい。

学童あずかりも8年目を迎え、卒園児に限定はしているが、10名ほどの児童が利用している。今後も安心安全を心がけ、子どもたちが安らげるよう、保護者にあっては安心して預けることができるよう運営していきたい。

子ども一人ひとりに合った関わり方や指導、保育内容について職員間でも話し合い共通理解を深めているが、その年やその時の子どもに合わせた対応の難しさを感じている。今後も経験を踏まえて臨機応変な配慮が出来るよう務めたい。

一人ひとりの特性に応じた環境構成とその場、その時の状況変化に適した促しができるよう今後も努力する。

子どもたちが、安心して過ごせる場所であるように個別対応の時間をとるクールダウンの場所をつくるなど信頼関係を築けるよう対応してきた。

外部給食を週2回に増やし、保護者からは、苦手なものに挑戦することや皆で同じものを食べる事など良い経験となっている。

本園の運営について保護者、関係機関のご理解・ご協力で深く感謝するとともに 今後の課題に取り組んでいきたい。

自分の思いを伝えられる環境作りを行い、お互いを認め合い過ごすことが出来た。

子どもたち同士互いに思いやり どのような状況でも優しく関わる姿が感じられる。

個別支援・対応に心掛けることで、子ども達が安心して園生活を過ごせるよう努めた。

大人も子どもも、一人ひとりを尊重し合いながら園生活を送る事が出来ていた。

どの場面でも保護者が積極的に参加、協力していただきホームページや気付いた事はアドバイス頂き無事終了する事が出来感謝です。

2歳児保育もスタートし、集団の中で他者を受け入れながら子ども達一人ひとり成長していると実感した。また、スムーズに園生活が送れるよう保護者と連絡を取りながら配慮していた。

2歳児の受け入れや個別の対応、行事の準備などたくさんの協力により保育を進めることが出来た。見つかった課題を検討しながら来年度に繋いでいきたい。

幼児の様子や変化は、その都度保護者に伝え、保護者からの発信も適切なアドバイスが出来る環境づくりに努力してきた。

保護者が安心して相談したり、保護者同士で話せる場がつけられていると思う。

SNSでの発信を通じて、園での活動の様子を振り返る事が出来る機会が出来たのは良かった。

園のLINEが、出来たが活用方法の難しさを感じた。

#### 5. 財務状況

太陽A S G有限責任監査法人による監査を受け、適正に運営されていると認められている。  
また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び本園の財務状況は率的な運営にあっている。